

## 関西支部シニア会活動報告

行事名	研修キャラバン
回次	第 13 回
開催日	2019 年 7 月 17 日 (水) 9 : 20 ~ 18 : 30
場所	関西電力(株)大飯発電所 ; 福井県大飯郡おおい町大島 1 字吉見 1-1
参加人数	28 名
行程	<p>9:15 集合 (大阪駅西口駐車場 ハービス大阪の北側)</p> <p>9:20 出発【車中 : エネルギー・原子力関連のご説明(約 1 時間)、DVD 映像 (質疑応答)】</p> <p>13:00 エルガイアおおい [ウェルカムホール] 到着 ・大飯発電所副所長挨拶、PWR 型 (加圧水型炉) 原発概要説明。記念撮影</p> <p>14:00 おおいり館へ移動 バスにて発電所内を車窓見学 (防火帯、主変圧器、タービン建屋、取水口/防潮堤/竜巻対策施設、免耐事務棟/緊急時対策所、福島事故以降に導入した可搬型設備等、ベンツ社製のウニモグなど、消防車 3 台、車窓見学不可エリアはバス内にて VR スコープで鑑賞)</p> <p>15:30 おおいり館帰着、玄関で記念撮影</p> <p>16:15 【帰路車中 : 使用済燃料対策等のご説明(約 1 時間)】 質疑応答で活発な議論があった。</p> <p>18:30 大阪駅周辺帰着・解散</p>
感想	<p>関西電力(株)広報室のマネージャーが複数同行され、大阪駅前を出発してすぐ、バス車内で「かんでん エル メッセージ」と題する冊子と DVD を使って、電力を中心とするエネルギー自給率などの説明があった。また関西電力はかつて原発発電割合が 40%を超えており、日本一の原発会社であったが、今日 20 数%台であるとの説明があった。福島第一原発の津波被災事故後は 0%となったが、再稼働により 29%まで上げる努力をしたとのことである。</p> <p>・再生可能エネルギー</p> <p>前述の冊子によれば[再生可能エネルギーへの取組み]という項目があり、5 ページに亘って解説されており、関西電力(株) (以後 関西電力と記す。) の尽力振りを知ることができた。</p> <p>それらによれば、有田太陽光発電所(2.97 万 kW 和歌山県 2015 年 10 月運転開始)、堺太陽光発電所 (1 万 kW 大阪府)、淡路風力発電所(1.2 万 kW 兵庫県)&amp;朝来バイオマス発電所(5,600 kW 兵庫県)など、15 箇所の自然エネルギーを使って発電しているプラントの記述があった。</p> <p>いずれも原発や火力発電の 100 万 kW 規模の発電容量からすると小規模な発電所であるが、太陽がある限り、得られる貴重な自然エネルギーである。それら再生可能電力は、膨大な面積を必要とする。また、天候による出力変動また周波数変動も必ず発生するため、電力会社は火力&amp;水力発電の可変運転を行なっているようである。その意味で、省エネ・省資源になったとは言え、多数の家庭電化製品を使っている我々も節電・節エネルギーに取り組むべきと改めて感じた。</p> <p>・過疎地対策としての原発</p> <p>福井県若狭地域は風光明媚なリアス式海岸があり、漁業資源にも恵まれたところであるが、地形上の制約もあって戦後過疎化が進んでいた。</p> <p>今回、同行して頂いた関西電力の方々によれば、若狭地区の三原発 (美浜、大飯&amp;高浜) に働いている人達の内、福井県出身者が 51%を占めるとのことであった。具体的には、大飯原発で働いている関電社員は約 500 名、関連会社社員 2,500 名、家族はその数倍になるだろうとのことであった。</p> <p>雇用提供という面以外に、港湾 (埋め立てを含む)、道路、公園、上下水道、学校、病院などの公共設備の整備も進められてきたようで、今回大飯原発でもそれらの実例を見聞させて頂いた。</p>

### ・保安対策&訓練

今回の大飯原発見学に際し、身分証明書になるもの（例. 運転免許証など）が一時預かりされた。かつて何度か関西電力の原子力発電所を見学する機会があったが、今回の扱いは初めての経験であった。例えば、同時多発テロ即ち、2001年9月11日にアメリカ合衆国で発生したイスラム過激派テロ組織アルカイダによる4つのテロ攻撃以来とのことである。他に、写真などは一切撮影禁止で、かばん類の持ち込みも禁止であり、貸し切りバスの中に一切の持ち物を置いて、発電所構内の見学に臨んだ。

設備類も相当重装備になっており、二重三重の保安対策が施されているようである。見学バスの中からも海岸近くのフェンスに10メートル毎に監視カメラが設置されているようであった。これら監視カメラを24時間人間に代わるAIがチェックしているとすれば、何かあった時の記録の再確認の意義・意味があるかも知れないと思われる。

「いざという事態に備えて、関連会社社員も含めての訓練回数は年間1,000回を超える。」との説明があった。一日に3回前後の頻度である。

エネルギーは国と国民生活の根幹であり、エネルギー無しでは毎日の生活すら成り立たない。人類を危機に陥れた第一次、第二次の世界大戦もエネルギーを巡る争いが主たる要因であったと考えられ、電気を含むエネルギーの確保は、平和を維持・継続させるためにも極めて重要であることを再認識させてくれた見学会であった。

お世話いただいた関西電力の関係者に謝意を表す。

（今回の見学では、指定された所以外は一切撮影禁止であった。下記の記念写真は、許可された所での撮影によるものである。）



エルガイアおおいの前で



おおいり館前で  
地元女子小学生の絵(太陽と海の幸)をバックに記念撮影